

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4090700099
法人名	特定非営利活動法人グループホームやまびこ
事業所名	グループホーム いなほ園
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区町上津役西2丁目11-23 (電話) 093-612-8920

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	2008年6月25日	評価確定日	2008年7月25日

【情報提供票より】(平成20年6月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000円	その他の経費(月額)	(熱光水費) 1日 100円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:1年)	
食材料費	朝食	550 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.5歳	最低	62歳	最高	89歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三浦整形外科・内科クリニック / 有松歯科医院 / 黒田クリニック / 東筑病院
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

いなほ園は、住宅街に位置する木造平屋造りの1ユニットである。開設から間もないにもかかわらず、室内は家庭的な雰囲気と思わせる。リビングは、厨房と対面式に流し台が設けられ、食器棚も入居者が使いやすいように配されている。その配置によって、無理なく自然に入居者が食事の準備や片づけに力を発揮できるようになっている。また畳の自室を帯で掃いたり、ウッドデッキで洗濯物を干す姿から、これまでの暮らしを尊重したケアが充実している状況が把握できる。いなほ園は、随所に入居者が日々の暮らしに大きく関わる「動き」があり、入居者は元気で大変活発な状況がある。職員は、家族にフェイスシート記載や会議出席を依頼するとともに、センター方式を活用し、生活歴・意向・状態のより深い把握を試み、本人本位の支援に努めている。日常の記録や家族への連絡文書についても、詳細な内容が確認され、自らの業務に対する真摯な姿勢がうかがえる。内部研修も充実しており、全員参加型のグループワークで、管理者は、職員の多様な意見の収集や、コミュニケーションの充実、さらには課題の周知に努めている。さらには、地域との連携も細やかで多様である。運営推進会議や防災訓練・行事参加だけでなく、傾聴や買物・散歩等、日常的なふれあいがみられる。地域の方が贈った作品や季節の花は室内に飾られ、暮らしに潤いと彩りを与えている。また近隣にある法人内のグループホームや宅老所とも連携がとれ、入居者だけでなく、職員にも刺激をもたらしている。これまでのなじみの暮らしは、入居者の思いや暮らしの尊重を核に、家族や地域・職員が、各々の思いいアイデア・技術を重ねた結果、実現に至ったと思われる。「様々な課題がある」と謙虚に述べる管理者の言葉は、同時に、さらなる可能性を物語っていた。今後の展開が楽しみである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回が初の外部評価となる。職員は評価の意義をふまえ、自己評価について全員で話し合い、検討を重ねながら取り組んできた。その結果、職員間のコミュニケーションの活性化と自己の業務を見直す、良い機会となっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の方が参加しやすいように市民センターで定期的に2ヶ月に1回開催している。入居者や家族の大半が出席し、地域の方も交え、闊達な意見交換や積極的な提案がなされていることが議事録より確認できた。報告の方法についても、行事記録等の資料も配布され、入居者の暮らしぶりが分かりやすいものとなっている。また登録メンバーについても25名に上り、広範な意見の収集に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月に1回、「日常生活近況報告書」として、入居者一人ひとりの生活状況や身体状況を記し郵送している。その内容は詳細で、その人の暮らしぶりがよく分かる。また面会時にも、会話の時間をもち、日々の様子を伝えるように努めている。また、その裏面にFAX返信用に連絡・要望等が記入できる様式を設け、意見・要望の収集に努めている。意見箱も設置しているが、運営推進会議に家族の大半が出席しており、その場で闊達な意見交換を行い、運営等に家族の意向や意見を反映できるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入するとともに、地域の行事や小学校の運動会に参加している。また地域のボランティアが気軽に頻りに訪れる関係があり、おやつ作りや散歩等、入居者と共に過ごしており、グループホームが地域の一員としてなじんでいる状況がある。忘年会には地域住民の参加もある。民生委員の来訪もあり、地域の中で暮らし続けるための地域との関係づくりができています。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」を主旨とする独自の理念を作り上げている。「一緒に」という言葉は、地域密着型の主旨をふまえ、地域の中で暮らし続けることを視野に入れたものである。		理念の文言「一緒に」が、「地域を含む」という解釈は、本事業所の地域に根ざした取り組みから理解はできる。この点を加味した上で、グループワークでの試みを始めとする自らの実績をふまえた、より進化した理念の再検討を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の挨拶時に、入居者と職員で一緒に唱和し、日々確認に努めている。また内部研修のグループワークで理念を取り上げ、一層の共有と浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入するとともに、地域の行事や小学校の運動会に参加している。また地域のボランティアが気軽に頻繁に訪れる関係があり、おやつ作りや散歩等、入居者と共に過ごしており、グループホームが地域の一員としてなじんでいる状況がある。忘年会には、地域住民の参加もある。民生委員の来訪もあり、地域の中で暮らし続けるための地域との関係づくりができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初の外部評価となる。職員は、評価の意義をふまえ、自己評価について全員で話し合い、検討を重ねながら取り組んできた。その結果、職員間のコミュニケーションの活性化と自己の業務を見直す、良い機会となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的実施している。入居者や家族の大半が出席し、地域の方も交え、関連な意見交換や積極的な提案がなされていることが、議事録より確認できた。報告の方法についても、行事記録等の資料も配布され、入居者の暮らしが分かりやすい。また登録メンバーについても25名に上り、広範な意見の収集に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの依頼を受け、管理者がグループホーム職員を対象に「運営推進会議の効果」について講演を行う等、協力関係が築かれている。今後は研修や実習生の受け入れ等を行う意向があるとのことで、その実施を期待したい。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度利用について、弁護士に相談する等、入居者の状態に応じた活用に努めている。またパンフレットや書籍を揃え、職員・家族への周知を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、「日常生活近況報告書」として、入居者一人ひとりの生活状況や身体状況を記し郵送している。その内容は詳細で、その人の暮らしぶりがよく分かる。また面会時にも、会話の時間をもち、日々の様子を伝えるように努めている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回郵送する「日常生活近況報告書」の裏面にFAX返信用として連絡・要望等が記入できる様式を設け、意見・要望の収集に努めている。意見箱も設置しているが、運営推進会議に家族の大半が出席しており、その場で闊達な意見交換を行い、運営等に家族の意向や意見を反映できるように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内3事業所間で異動を行っている。入居者と職員の関係性等をふまえ、バランスを重視した職員配置がなされている。その際の引継ぎについては、入居者にダメージがないように周知を徹底している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、性別・年齢等を理由に採用対象から排除することはない。管理者は、職員に目標を提示したいとの意向から、資格取得の支援や昇給昇進・外部研修の参加の機会拡大に努めている。また職員のヒアリングから、研修に参加しやすい雰囲気にあることが確認できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	内部研修で、「認知症の人の望ましい接し方及び暮らし」についてのグループワークを行う等、人権教育に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	定期的に研修の機会を設けている。外部研修に参加した際には、報告書の提出とミーティングでの伝達を行い、内容の周知に努めている。また「業務事項提案書」が準備され、職員が意見・疑問・提案を行い、管理者が即座に回答する仕組みも確立されている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入しており、定期的な研修や会合に参加している。グループホーム協議会に加入している同業者のネットワークが構築されており、情報交換など活発に行っている。また法人内のグループホーム・宅老所と必要に応じて、情報交換や交流も活発に行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人の気持ちの負担とならないように、初回の見学から始まり、食事のみ、午前中までと、段階的に短時間のサービス提供を行っている。これらの段階をふまえ、徐々になじんでいただきながら本人の意思を尊重し、納得した上での契約を行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	食事や掃除・洗濯の場面で、入居者ができる範囲での役割を担い、職員と共に働いている。共に何かを行うことで、同じ目線で、思いの共有に努めるとともに、コミュニケーションの充実を図り、信頼関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>じっくりと話す機会を設け、信頼関係を築く中で、思いや意向の把握に努めている。また困難な場合についても、入居前、家族にフェイスシートの記載を依頼し、生活歴の把握に努めたり、ミーティングへの参加を依頼し、直接、職員と意見交換を行う等、本人本位の検討に取り組んでいる。アセスメントについては、必要に応じてセンター方式を活用している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族記載のフェイスシートや、センター方式を活用したアセスメントで、本人の意向や状態を把握し、必要に応じて医師や関連施設等と連携しながら介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1回、ミーティングを実施し、計画の見直しを行っている。見直し以前の変化についても、臨時会議を開くとともに、必要に応じて、家族の参加を依頼する等、現状に即した計画の見直しを実施している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>法人内の宅老所のデイサービス利用者との交流があり、地域の方々を含め多くの人との交流を育む環境を提供している。また、希望に応じて、墓参りや外食等、柔軟な支援を行っている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族に説明し、同意の上、協力医療機関(内科・外科・皮膚科・歯科)が、かかりつけ医となっている。必要に応じて、他科受診にも対応している。基本的には、家族同行だが、困難な場合は職員が代行している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居時、事業所の方針を説明するとともに、必要と考えられる場合についても、早い段階から家族と話し合いを行っている。同時に、協力医とともに24時間対応可能な体制がとれ、十分に協議の上、「ターミナルケアプラン」を作成し、全員で方針を共有している。看取りの経験もあり、現在も、実際にターミナルケアに取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者一人ひとりを個人として尊重し、平素から、言葉使いや態度・仕事に対する姿勢に一定の節度を維持している様子がうかがえる。また記録等についても、別室のロッカー内に適切に保管・管理されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	大まかな日課はあるが、一人ひとりの生活習慣やペースを尊重し、自由に過ごせるように支援している。要望についても、可能な限り取り入れ、入居者の意向の実現に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	職員と一緒に入居者のできる範囲で、買物や準備(配膳・盛付け)・片づけを行っている。出来合いのものを使用せず、入居者の好みや状態に配慮した食事が提供されている。魚・肉等については、市場へ直接買い付けに行き、新鮮で安全な食材の提供に努めている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は基本的に週に3回実施しているが、希望があれば毎日でも可能である。一人ひとりの意向や体調に合わせ、柔軟に対応している。また石風呂に檜の座り台と和風の造りで、入浴を嫌がる方の興味を引くようにとの配慮がある。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの意向や状態に応じて、家事や菜園での野菜作り・ドライブ等を実施している。英語の得意な方には、英語で日記を付けてもらう等、各自の生活歴を活かした支援がなされている。また子猫を飼っており、暮らしの中の癒しに一役かっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や体調に応じての散歩や買物・季節ごとの花を楽しむドライブ等、日常的に実施している。また法人内のデイサービスに遊びに行くなど外出を楽しんでいただけるように努めている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員間で、施錠することの弊害は周知されており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。安全管理の面から、入口にチャイムを設置する等の工夫もなされている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回の訓練を実施し、内1回は消防署の立合いがなされている。地域住民の参加も見られ、協力関係が築かれている。職員も避難経路・場所を把握し、日頃から落ち着いた対応ができるように努めている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	調理師が栄養バランスを考慮した献立を作成している。食事量・水分量ともに摂取状況を記録し、十分な量の確保に努めている。また一人ひとりの状態に合わせた調理方法や細やかな水分摂取等の工夫も実施している。職員の中には栄養士もあり、栄養バランスや摂取量に配慮している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングには、流し台や食器棚等が入居者に使いやすいように配置され、家庭的な雰囲気がある。室内には、地域の方から贈られた(手作りの)パッチワーク作品や季節の花が飾られ、季節感や潤いを与えている。ウッドデッキでは、日光浴やプランター栽培を楽しむことができる。各トイレには赤い造花を配す等、さりげない目印の工夫もみられる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	畳の部屋がなじみの空間として受けとめられ、安堵感のある居室となっている。各居室には調度品等が持ち込まれ、本人本位の空間づくりがなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			